

但馬国赤花 鬼子母神

日蓮宗 円融山法華寺

〒668-0352

兵庫県豊岡市但東町赤花398

☎0796-56-0526

kishimojin@ares.eonet.ne.jp

http://web.mac.com/kishimojin/hokkejitepmple

今年も大雪となり、境内の雪は、四月まで残りそうです。

今年一年の宗務所の行事、並びに、中嶋英教上人、第三十三回忌法要、春彼岸会、四月の鬼子母神大祭について、お知らせいたします。

平成二十四年度

日蓮宗北部宗務所行事予定

第四十四回護法大会

日時：四月二十九日（日） 十時～

会場：豊岡市 勝妙寺

参加要請地区：日場以東

教師・寺庭夫人会・檀信徒研修会

日時：五月二十七日（日） 午前十時

会場：豊岡市 立正寺

寺院・檀信徒協議会

日時：五月二十七日（日） 午後一時

会場：豊岡市 立正寺

但馬信行会

日時：九月三〇日（日） 十時～

会場：豊岡市日高町 妙福寺

参加要請地区：畑山以西

歳末助け合い唱題行脚

日時：十一月二十四日（土） 午後二時

場所：赤花 法華寺

詳細は後日決定

中嶋英教上人第三十三回忌法要

並びに 春季彼岸法要

日時：三月二十日（火） 十時～

十時～中嶋英教上人第三十三回忌法要

引き続き 春季彼岸法要

* 食事を用意いたしますので、地区役員さん

におかれましては、出席人数の確認を、三

月十一日（日）までにお願いたします。

* 年頭にお配りいたしました暦には、春季彼

岸法要の日は、三月二十日、午後二時か

ら、となっておりますが、右記の通り変更い

たします。

* 彼岸袋の無い方は、買い物袋にお彼岸米を

入れて、お供えしていただければ、ありがた

平成二十四年鬼子母神大祭スケジュール

四月十五日（日）

* おみがき講 午前八時～

上組（日場以東）担当

* 鬼子母神参道、滝道などの整備（役員）

* 鬼子母神小旗・立て看板設置（役員）

四月二十日（金）

* 準備 午後一時～

上地区担当

四月二十一日（土）（上地区）

四月二十二日（日）（下地区）

四月二十三日（月）

* 後片付け 午前八時～

下地区担当

役割表等、後日配布

神興再興基金勧募

江戸時代当初、赤花に法華寺が建立されてからまもなくして、神龍山山頂に法華寺の御守護善神として鬼子母神が祀りされるようになりました。

以来、三五〇年以上のもの間、毎年四月に、鬼子母神の御神体を山頂より法華寺本堂に遷して大祭を厳修してまいりました。

そのさい、神龍山山頂に奉安されております鬼子母神の御神体の送り迎えに、旧鳥居場まで、神興が用いられておりましたが、様々な理由で、神興による送り迎えが途絶えてから半世紀以上にもなっております。

このたび、鬼子母神信仰に縁のある方に広く浄財を求め、神興再興を願いました。皆様方におかれましては、家庭の中で、眠っている小銭などがありましたら、お参りの際、どうぞ神興再興募金箱に、ご寄付を賜りますようお願い申し上げます。

本地久成の円仏は此の世界に在す、此の土を捨てて何れの土を願うや。

故に法華の行者の所住の処を浄土と想ふべし、何ぞ煩わしく他処を求めんや。

『守護国家論』一二五九年 宗祖御年三十八歳

現実の浄土とは

お題目の信仰に生きる私たちの求める浄土(み仏の世界＝彼岸)は、一体どこにあるのでしょうか。

日蓮大聖人は、そんな私たちの問い掛けに、本地久成の円仏(み仏)は、私たちの住む此の世界(娑婆世界＝此岸)にこそ、居られるのだと、たとえどのようなことがあっても現実の此の世界を離れて、「しあわせ」や「よろこび」を叶える場所(浄土)など無いことをお示しくされた。

み仏の子として、み仏の命を生きる私たち＝法華経の行者の所住の処(住所)が、そのまま浄土であることを、ここに明言されたのである。

今、私たちが生きる此の世界は困難が多く、決して楽しいばかりの日々ではない。それ故に、私たちは時として、自分の置か

れた立場や環境に目をつぶり、あたかも浄土を他所に求める如くに、現実逃避をしてしまう。

しかし、その現実を目を背けてしまつては、法華経の行者(＝み仏の命を頂戴し、此の現実世界でみ仏のはたらきを顕す者)は務まらず、此の世に浄土を顕現しない。

だからこそ、私たち、それぞれの立場や環境の中でお題目の信仰に生きる者が、今こそ、大きな円(円仏)となり、前向きに自分の願う浄土の姿を目指して、自身の周りに志を同じくする真の行者を募るのだ。

法華経の行者(み仏のはたらきを顕す者)が住まう処は、即ち浄土。

春、彼岸。

此岸に彼岸を引き寄せる、そんな信仰のあり方が、私たちの住む此の世界に、現実の浄土を顕すことを、心に刻む時期なのである。

(霊断師会『今月の法話』より)

香奠

— お金を入れるに、何故こう呼ぶのか —

通夜や告別式に参列する時、遺族に贈る金銭や物品等を香典をいい、「香奠」とも書きます。

「香」は「お香」、「奠」は「供える」という意味

です。

仏事では、もともと花や供物とともにお香を供える習慣がありました。そのため、通屋や告別式にもお香を持参して行つたのですが、時代とともに葬儀には多額の費用がかかるようになったから、現金を包むようになって来ました。

昔から「慶事には少なく、弔事には多く」といわれるように、香奠の場合には多めの額を包むのが原則ですが、「故人が目上の時には薄く、目下の時には厚く」とも「故人が一家の長やその伴侶の時は多めに、子供や老人の時には少なめに」とも言われております。

一般的に香奠の表書きには「御香典」「御香料」「御霊前」などと薄墨で書き、回忌の法事の際には、「御仏前」と書くのが慣例です。四十九日が明けるまで、亡くなられた方は、まだ、仏となっていないからです。

香奠を贈られた遺族は、忌み明けの挨拶状とともに、香奠返しの商品物を贈るのが一般的です。

このときの商品物は、悲しみを引きずらないようにと、後に残らないお茶や海苔などが使われます。

(飯倉晴武『日本人のしきたり』より)